

## 教師用手引き 授業のアイデア

### キャッチコピーを具体的にイメージさせるための有効な手立て

#### 1 キャッチコピーとは...

宣伝や広告など用いられ、読み手に興味をもたせて、心を引きつけるように工夫された印象の強い短い言葉のこと。

例 「幕末の日本で、敵からも味方からも最も恐れられたのがこの男。」

(司馬 遼太郎の小説『燃えよ剣』のキャッチコピー)

#### 2 キャッチコピーを具体的にイメージさせる手順

キャッチコピーの具体例を示し、身近にあるキャッチコピーで思いつくものを出し合わせる。キャッチコピーには、主に「疑問提示型」「比喩表現型」「リズム重視型」「多義語活用法」などの型があることを知らせる。

それぞれの型の特徴を説明し、それぞれの型の具体例を示す。このときに、生徒から出されたキャッチコピーについてもできるだけ、この四つの型で分類して示す。

### キャッチコピーの型

**疑問提示型** ... 呼びかけ、問いかけ、反語表現で書く。

例 「友情と恋の、どちらかを選ばなくてはならなくなったら、どうしますか...。」  
(『こころ』夏目漱石)

「世界の寿命はあと三年。...あなたは何をやる？」

(『終末のフール』井坂幸太郎)

**比喩表現型** ... 比喩法や擬人法、擬態・擬声語を用いて表現する。

例 「飲んだあと 体がキラキラする感じ。」

「おひさまが喉で笑いました。」

**リズム重視型** ... 五七(七五)調や対句調で書いたり、頭韻や脚韻を用いたりする。

例 「読み始めたすぐに「なぜだ?」と思い、読み終えた直後に「なぜだ!」と叫ぶ。」

(『変身』カフカ)

「セブン イレブン いい気分」(セブンイレブンCMキャッチコピー)

**多義語活用法** ... 同音異義語や同訓異字、語呂合わせやパロディーを用いる。

例 「宅配はネコである。」(クロネコヤマトCMキャッチコピー)

「地デジカ」(日本民間放送連盟CMキャッチコピー)

実際にキャッチコピーを作らせる。

実際に授業で説明を行った際の板書の様子

